

第32回全国健康福祉祭和歌山大会 ねんりんピック紀の国わかやま2019
ねんりんピック体験談

題名：ねんりんピックで得たもの

岩手県選手団卓球交流大会「南部いわて」選手 鷲盛 法子

開会式入場、お揃いの紺碧のユニフォームで和歌山紀三井寺公園陸上競技場に145人の岩手選手団の行進が始まった。二度目のねんりんピック参加ではあったが、新鮮な気持ちと高揚感が抑えきれず、本部席通過後の旗の降下も忘れて仲間から注意を受けて苦笑い。

開会式、アトラクション共感動的だつた。岩手国体の観客席で味わった感動とは別物の高鳴りと満足感で胸が一杯になった。一万人の選手と観客を含め述べ約40万人の参加だと言うが、その人数の多さと色とりどりの衣装はまさに圧巻そのもの、この群衆の中にいる一人と思うと興奮、不思議な感覚だった。

卓球種目は6人（男3、女3）の参加で、60、65、70歳以上の構成となっている。盛岡、滝沢、紫波、奥州、大船渡、北上と地域はバラバラだったが、何度となく集合し技術向上と意識統一を図った。岩手代表、仲間には迷惑はかけられない気持ちで必死に練習会場に向かっていた。夏場は汗が滝のように流れ、それでもこのチャンスを生かし、アドバイスをもらいながら技術向上に必死に取り組んだ。大会までは怪我のないよう、病気にかからないよう健康管理に努めた。何かに必死に立ち向かおうとする久しぶりの感覚が蘇り、青春が宿り、学生時代に経験したわくわく感がとても心地よかった。

和歌山は遠距離で不安一杯。大丈夫大丈夫といい聞かせての参加だった。何事もなくクリア出来た事で自信と勇気を得る事ができた。この大会は名称「健康福祉祭」と言う。75歳を過ぎてからこの大会の開催を知り又偶然にも2年前から70歳以上の女子1名の参加が認められて秋田ねんりんピックに初挑戦した。今回は年齢的にも体力的にも技術的にも無理と諦めていたものの偶然にもチャンスが訪れ出場する事ができた。

最初は申し訳ない、私でいいのかと遠慮がちだった。参加選手の中から最高齢者の表彰があり、何と百歳の表彰者のいる事を知り、ねんりんピックの開催趣旨・意味づけを理解した。百歳時代と言われている昨今、健康で目標を持って生きていく事の重要性を改めて感じ取った貴重な大会となった。岩手の戦力の一員とはなり得なかったが、長年続けてきた卓球を今後も継続し健康作りに励んでいきたいと思う。

ねんりん仲間には深く感謝している。そして事務局の方々の支援、協力で無事終えた事に感謝一杯である。